

適用病害虫の範囲及び使用方法（平成 28 年 8 月 3 日現在）

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数	
				薬量	希釈水量				
果樹類 (かんきつ を除く)	—	一年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	3 回以内	雑草 茎葉散布	3 回以内	
		多年生雑草		500～1000 ml/10a					
		スギナ		1500～2000 ml/10a					
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a					
かんきつ		一年生雑草		200～500 ml/10a		5 回以内		5 回以内	
		多年生雑草		500～1000 ml/10a					
		スギナ		1500～2000 ml/10a					
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a					
びわ(葉)		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a		1 回		3 回以内	3 回以内
		多年生雑草	収穫 7 日前まで (雑草生育期)	500～1000 ml/10a		3 回以内			
		スギナ		1500～2000 ml/10a					
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a					
オリーブ (葉)		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 ml/10a		1 回		3 回以内	3 回以内
		多年生雑草	収穫 21 日前まで (雑草生育期)	500～1000 ml/10a		3 回以内			
		スギナ		1500 ml/10a					
		マルバツユクサ		500～1500 ml/10a					
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	500～1000 mL/10a	少量散布 5～25L/10a	3 回以内	3 回以内		
		一年生雑草		200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a				
		多年生雑草		200～1000 mL/10a					
		スギナ		1500～2000 mL/10a					
水田作物 (水田刈跡)	水田刈跡	一年生雑草	雑草生育期	200～500 ml/10a	25～50 L/10a	1 回	1 回		
		多年生雑草		500～1000 ml/10a					

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数	
				薬量	希釈水量				
水田作物、畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	3 回以内	雑草 茎葉散布	3 回以内	
		多年生雑草		500～1000 mL/10a					
		スギナ		1500～2000 mL/10a					
水田作物 (水稻を除く) 移植水稻	—	一年生及び 多年生雑草	耕起前 (雑草生育期)	200～500 mL/10a	2 回以内	2 回以内			
500 mL/10a				少量散布 5～25L/10a					
200～500 mL/10a				通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a					
500 mL/10a				少量散布 5～25L/10a					
直播水稻				耕起直後～出芽前 (雑草生育期) (乾田耕起栽培)				200～500 mL/10a	少量散布 25～50 L/10a
				は種 30 日前～ 出芽前 (雑草生育期) (乾田不耕起栽培)					
麦類	—	一年生雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	500mL/10a	3 回以内	3 回以内			
		一年生雑草及び 多年生イネ科雑草		200～500 mL/10a				通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	
				は種後出芽前 (雑草生育期)				通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	
	圃場内の 周縁部	一年生雑草	収穫前日まで (雑草生育期)	500mL/10a				少量散布 5～25L/10a	
				500mL/10a				少量散布 5～25L/10a	
				500mL/10a				少量散布 5～25L/10a	
雑穀類 (そば、とうもろこしを 除く)	—	一年生雑草	耕起前又は は種前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	2 回以内	2 回以内			
そば		一年生及び 多年生雑草						とうもろこし 出芽前まで (雑草生育期)	
とうもろこし									

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
豆類 (種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、らっかせいを除く)	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2 回以内	雑草 茎葉散布	2 回以内
あずき いんげんまめ			収穫 5 日前まで (雑草生育期： 畦間処理)					
だいず			耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5～25L/10a			4 回以内
			耕起前又はは出芽前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a			
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)					
			落葉終期～ 収穫 14 日前まで (雑草生育期)	500mL/10a	50～100 L/10a	1 回		

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数										
				薬量	希釈水量													
えだまめ	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	500mL/10a	少量散布 5～25L/10a	3回以内	雑草 茎葉散布	3回以内										
			耕起前又は出芽前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a				2回以内	1回								
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)															
一年生雑草		耕起前まで (雑草生育期)	1回			3回以内		3回以内										
									はくさい キャベツ		耕起前又は 定植5日前まで (雑草生育期)	3回以内						
													ねぎ	収穫30日前まで (雑草生育期： 定植後畦間処理)	3回以内			
																たまねぎ (春播栽培)	耕起5日前まで (雑草生育期)	3回以内
		たまねぎ (秋播栽培)							収穫7日前まで (雑草生育期： 畦間処理)		3回以内							
													スギナ	耕起又は 定植14日前まで (スギナ生育期)		1500～ 2000mL/10a		
		一年生雑草							200～500 mL/10a									
にんにく			3回以内	2回以内	3回以内													
										ほうれんそう			1回	2回以内				
にんじん			2回以内	3回以内	3回以内													
						アスパラガス		1500～2000 mL/10a		2回以内								
スギナ			1500～2000 mL/10a	2回以内														

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
だいこん	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2 回以内	雑草茎葉 散布	2 回以内
薬用にんじん トマト しゃくやく (薬用) たらのき			収穫 5 日前まで (雑草生育期： 畦間処理)			1 回		10 回以内 (1 年間に 2 回以内)
			耕起前まで (雑草生育期)					3 回以内
			耕起前まで (雑草生育期)					
きゅうり なす			耕起前まで (雑草生育期)			2 回以内		
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)					
ピーマン とうがらし類			耕起前まで (雑草生育期)			1 回		2 回以内
			収穫前日まで (雑草生育期： 畦間処理)					
いも類 (かんしょを除く)			耕起前又は 植付け前まで (雑草生育期)			2 回以内		2 回以内
			耕起前又は 挿苗前まで (雑草生育期)					
かんしょ		収穫 60 日前まで (雑草生育期： 畦間処理)	2 回以内	2 回以内				
		摘採 7 日前まで (雑草生育期)						
茶		一年生及び 多年生雑草	耕起前又は 植付け前まで (雑草生育期)	4 回以内		6 回以内		
さとうきび		一年生雑草	500～1000 mL/10a	2 回以内				
	多年生雑草							
	一年生及び 多年生雑草	500～1000 mL/10a						
	収穫 60 日前まで (雑草生育期： 畦間処理) (但し、 仮茎長 1.5m 以上)							
圃場内の 周縁部	一年生雑草	200～500 mL/10a	2 回以内					
	多年生雑草	500～1000 mL/10a						

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
飼料用とうもろこし	—	一年生及び多年生雑草	飼料用とうもろこし出芽前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	2 回以内
花き類・観葉植物 (きくを除く)		一年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)					
きく			雑草生育期 畦間処理	500～1000 mL/10a 1500～2000 mL/10a 500～1500 mL/10a		4 回以内		4 回以内
樹木類		多年生雑草						
		スギナ						
		マルバツユクサ						
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道 等	一年生雑草	雑草生育期	200～500 mL/10a	3 回以内	植栽地を除く樹木等の周辺地に雑草木茎葉散布	3 回以内	
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				
		一年生及び多年生雑草		500～1000 mL/10a				少量散布 5～25 L/10a
		スギナ		1500～2000 mL/10a				通常散布 50～100 L/10a
		ススキ ヒレハリソウ等 のつる性多年生雑草 ササ類 雑かん木		1000～2000 mL/10a				少量散布 25～50 L/10a
		ススキ ヒレハリソウ等 のつる性多年生雑草 ササ類 雑かん木		1000～2000 mL/10a				少量散布 25～50 L/10a
牧草	牧野、草地 (更新・造成)	一年生及び多年生雑草	耕起前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	少量散布 25～50 L/10a	3 回以内		3 回以内
			耕起整地後～は種当日まで (雑草発生揃期)					
		リード・カナリーグラス	最終刈取後：雑草生育期 (草丈 50cm 以下)	500～1000 mL/10a	50～100 L/10a			
ソルガム	—	一年生雑草	耕起前又はは種前まで	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	2 回以内	雑草茎葉散布	2 回以内
桑		一年生及び多年生雑草	発芽前又は夏切後発芽前 (雑草生育期)		少量散布 25～50 L/10a	4 回以内		4 回以内
林木	林地 造林地 (地ごしらえ)	ススキ、ササ類、クサ等の多年生雑草、雑かん木	生育期	1000～2000 mL/10a	30L/10a	3回以内	雑草木茎葉散布	3回以内
まつ (下刈り)	—				25L/10a			
飼料用 さとうきび	—	一年生雑草	耕起前又は植付前まで (雑草生育期)	200～500 mL/10a	通常散布 50～100 L/10a 少量散布 25～50 L/10a	4 回以内	雑草茎葉散布	4 回以内
		多年生雑草		500～1000 mL/10a				

注入処理

作物名	適用場所	適用 雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用 方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数		
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	クズ	生育期	原液	1～2mL/株	—	株頭注 入処理	—		
		雑かん木	雑かん木 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7～8cm間隔 <u>地上30cm直径</u> <u>カ所数</u> 10cm以下 2～3 10～15cm 4～6 16～20cm 7～9 20cm以上 10以上		立木注入 処理			
					<u>つる径</u> <u>使用量(mL/株)</u> 2.0cm以下 0.5 2.1～3.0cm 1.0 3.1～4.0cm 1.5 4.1～5.0cm 2.0 5.1cm以上 3.0以上				つる注入 処理	
		クズ・フジ 等のつる 類	生育期							
林木	林地	竹類	夏～秋期		原液		5～10mL/本		—	竹稈注入 処理
	林地 放置竹林 畑地									
	林地	雑かん木、 間伐する すぎ、ひの き	雑かん 木、間伐 するす ぎ、ひの き 生育期	原液 又は 2倍液	1mL/カ所 幹周7～8cm間隔 <u>地上30cm直径</u> <u>カ所数</u> 10cm以下 2～3 10～15cm 4～6 16～20cm 7～9 20cm以上 10以上		立木注入 処理			
		アカギ	アカギ 生育期		1mL/カ所 幹周7～8cm間隔 <u>地上30cm直径</u> <u>カ所数</u> 10cm以下 2～3 10～20cm 4～8 20cm以上 10以上					
畑作物	林地 放置竹林 畑地	竹類	夏～秋期	原液	5～10mL/本		—		竹稈注入 処理	—
	畑地	アカギ	アカギ 生育期		1mL/カ所 幹周7～8cm間隔 <u>地上30cm直径</u> <u>カ所数</u> 10cm以下 2～3 10～20cm 4～8 20cm以上 10以上					

塗布処理

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈 倍数	使用液量	本剤の 使用回数	使用方法	グリホサート を含む 農薬の総 使用回数
樹木等	公園 堤とう 駐車場 道路 運動場 宅地 のり面 鉄道等	雑かん木	伐採直後	原液 又は 2 倍液	切り口全体に 十分量を塗布	—	植栽地を 除く樹木 等の周辺 地に切株 塗布処理	—
樹木類	林地 畑地			原液	切り口直径 塗布量 5cm以下 2mL 5～10cm 3～6mL 10cm以上 10mL以上	4 回以内	切株塗布 処理	4 回以内
牧草	牧野 草地				2 回以内	3 回以内		
日本芝 (のしば)	—	一年生及び 多年生雑草	雑草生育期	5～10 倍	3～9L/10a	3 回以内	雑草茎葉 塗布	3 回以内

使用上の注意事項

- (1) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- (2) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調製には用いないこと。
- (3) 展着剤の加用の必要はない。
- (4) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- (5) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- (6) 本剤は通常 2～7 日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- (7) スギナ防除に際しては、スギナが他雑草の中に埋没しているような条件の散布では効果が劣ることがあるので、スギナにかかるように注意して散布すること。
- (8) たまねぎ（春播栽培）のスギナに使用する場合、前作のたまねぎ（春播栽培）収穫後のスギナ生育期に散布すること。
- (9) 一年生広葉雑草、または多年生雑草のうちススキ、セイタカアワダチソウ等を主対象に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (10) 生育の進んだマルバツユクサに使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (11) 処理後 1 時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- (12) 注入処理の場合には
 - 1) 雑かん木、間伐するすぎ、ひのきには、樹幹の回りに等間隔にナタ目を入れ薬液を注入処理するか、ドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 2) アカギには、根張り付近に等間隔にドリル等で穴を開けて薬液を注入処理し、穴をコルク栓などで塞ぐこと。
 - 3) 竹類の竹稈注入処理の場合は、処理竹から 15m 以内に発生したたけのこを食用に供さないこと。また、縄囲いや立て札により、たけのこが採取されないようにすること。
 - 4) クズ・フジ等つる類のつる注入処理に使用する場合、出来るだけ地際に近い部分に、外皮を木部が現れるように切り出しナイフ等で剥皮(幅 1.0～1.5cm、長さ 6～8cm 程度)し、切り口に薬液が十分付着するように処理すること。また、つる径 2cm を超えるものは浅めに切り口を 1～2 箇所つけて処理すること。
 - 5) クズの株頭注入処理に使用する場合、株頭にナタなどで傷をつけ、薬液がよくしみ込むように注入処理すること。
- (13) 少量散布の場合は、希釈水量(5～25L/10a 又は 25～50L/10a)に応じ、それぞれ専用のノズルを用いて、雑草木の葉面に均一に散布すること。
- (14) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること（だいたいの落葉終期～収穫 14 日前までに散布する場合を除く）。
- (15) 水田畦畔のアシカキ、ハイコヌカグサ、キシユウスズメノヒエ等に使用する場合、所定範囲の多めの薬量を使用すること。
- (16) 生育期畦間処理で使用する場合は、飛散防止カバーを使用し、作物体にかからないように散布すること。
- (17) さとうきびの畦間処理で使用する場合は、仮茎長が 1.5m 以上のさとうきびに使用し、さとうきびにかからないよう雑草茎葉に散布すること。また、倒伏したさとうきびに薬液が付着すると薬害が生じるので、かからないよう十分注意すること。
- (18) 牧草の適用雑草名「リードカナリーグラス」に使用する場合、雑草が生え揃った時期以降に散布し、草丈の目安は 20cm 以上とすること。
- (19) 作物の出芽前に使用する場合、出芽後に散布すると薬害を生じるおそれがあるので、必ず出芽前に散布すること。

- (20) 塗布処理の場合、
- 1) 雑かん木には、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
 - 2) 芝の一年生及び多年生雑草には、雑草と芝の高低の差等を利用して、雑草の茎葉に塗布器具等で軽くなでるように塗布すること。誤って芝に付着すると薬害を生じるので十分に注意すること。
- (21) だいつの落葉終期～収穫 14 日前までに使用する場合、特に以下のことに注意すること。
- 1) 落葉終期とは、だいつの葉の大部分が落葉した時期とする。
 - 2) だいつ着生葉や莢色に淡緑色が残っている等の成熟の遅れた株(青立ち株)に散布すると、子実の変色やしわ粒等が発生する場合があるので、散布前に除去等を行うこと。
 - 3) 水分含量の高い果実をつけた雑草では茎葉が枯れても果実が残る場合があり、汚損粒の原因となるので収穫前に除去等を行うこと。また、雑草の茎水分含量が高い場合も汚損粒の原因になるので収穫前に除去等を行うこと。
 - 4) 気温が低下する条件での処理であり、効果の完成まで 2 週間以上の期間を要するので、収穫時期は処理後 3 週間を目安とする。
- (22) 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調製した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。
- (23) 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。
- 1) 水源池、養殖池等に本剤が飛散、流入しないよう十分に注意すること。
 - 2) 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。
- (24) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (25) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。